

# 音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅰ	74	2	4
実習	歌唱/演奏/基礎技術Ⅰ	74	2	2
実習	歌唱/演奏/応用技術Ⅰ	74	2	2
講義	音楽理論/調音Ⅰ	74	2	4
実習	サウンドアナライズⅠ	74	2	2
演習	アンサンブル実習Ⅰ	148	4	8
合計		518	14	22

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身に付け、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 II部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声をツールとして身につける。</li> <li>・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げるとともに音量、音圧など自在にコントロールできるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	教科書使用(ボイス理論1～4)
【前期】 5～8回目	教科書使用(ボイス理論5～8)
【前期】 9～12回目	教科書使用(ボイス理論9～12)
【前期】 13～16回目	教科書使用(ボイス理論13以降)
【前期】 17～19回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	基礎発声練習(チェストボイスの開発)
【後期】 24～27回目	基礎発声練習(チェストボイスの定着)
【後期】 28～31回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの開発)
【後期】 32～35回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの定着)
【後期】 36～37回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変えていきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。</li> <li>・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。</li> <li>・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。</li> <li>・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。</li> <li>・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験: 筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験: 筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。 チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルディレクション I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 II部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
<b>授業概要</b>					
主にパフォーミングアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。					
<b>到達目標</b>					
オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーミングアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。 またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 5～8回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲者、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 9～12回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 13～16回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生まれ出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 17～19回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 24～27回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 28～31回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 32～35回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 36～37回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。					
<b>到達目標</b>					
自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。  歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【自由曲①(バラード)】ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 5～8回目	【自由曲②(アップテンポ)】リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 9～12回目	【自由曲③(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 13～16回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 17～19回目	【自由曲(①～④より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験: 課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 24～27回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)】ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 28～31回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 32～35回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 36～37回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験: 課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。

備考	
----	--

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル実習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 II 部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール 上記の経歴を活かし、職業として求められる「アンサンブル実習」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次より細かいリズムや音程もしっかりとて歌う。</li> <li>・曲を理解しエンターテインメントを習得する。</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い声域を使い、ヴォーカリストとしてレベルアップを目指す。</li> <li>・自分の表現の幅を広げて、ライブステージを楽しむ。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	課題曲①アップテンポ女性曲、POPSリズムに乗りベース配分を考えてメリハリをつける。
【前期】 9～16回目	課題曲②アップテンポ男性曲ROCK、滑舌よくリズムにのり叫ぶところは叫ぶ、ワイドな歌唱。
【前期】 17～24回目	課題曲③ミドルテンポ女性洋楽、英詞のもつリズムをアナライズしてアクセント、響きを学ぶ。
【前期】 25～32回目	課題曲④ミドルテンポ男性洋楽、英詞のもつリズムをアナライズしてアクセント、響きを学ぶ。
【前期】 33～38回目	課題曲①～④の中からLIVE実習にむけて選曲し、リハを重ねる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	課題曲⑤ミドルバラッド女性Vocal曲、ビブラートなどのバラッド技術を学ぶ。
【後期】 47～54回目	課題曲⑥ミドルバラッド男性Vocal曲、ビブラートなどのバラッド技術を学ぶ。
【後期】 55～62回目	課題曲⑦6/8などのバラッド曲、難しいリズム、3連を感じて歌う。
【後期】 63～70回目	課題曲⑧7/8や5/8が入る曲、キメなどをしっかりおとさずに巧みにのって歌う。
【後期】 71～74回目	課題曲⑤～⑧の中からLIVE実習にむけて選曲し、リハを重ねて発表。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	エンターテイナーなヴォーカリストを目指して技術を高めていく授業です。ステージで魅力を出すためにがんばりましょう。
備考	